

## <完了報告書 申請者感想>

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 助成事業

市民講座「最後まで自分らしく生きるために」～いま私が受けたい介助～

『力と意欲を引き出す介助術』実践報告会

以下の内容で、公益財団法人在宅医療助成 勇美記念財団 助成事業 市民講座を開催いたしました。

1. 日 時：2021年6月20日（日）10時～16時30分
2. 会 場：ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター） セミナー室
3. タイトル：「最後まで自分らしく生きるために」～いま私が受けたい介助～  
『力と意欲を引き出す介助術』実践報告会
4. 参加人数：150名以上（午前中の参加者最多時）

当初、対面とオンラインの両方による発表・参加を予定していましたが、コロナの影響で会場が使用不可となりオンラインのみでの開催を余儀なくされました。

当日会場から発表した4組以外の発表者と参加者は、ほぼ zoom による参加になりました。

直接、発表者と視聴者の生の声を聞くことはできなくなりましたが、反面、動員数は150名以上を記録したので多くの方に参加していただくという目標は達成されたのではないかと考えています。また、地元参加という市民講座の趣旨からは外れるかもしれませんが、発表者は北海道から鹿児島に及び、参加者に関しても日本だけでなく海外からの参加もあり、オンラインならではの特徴のように思います。

zoom を使ったことのない高齢者からの参加申し込みもあり、パソコンやスマホ、zoom の使い方も事務局で対応しました。

今回、発表した17の事例の中には家族からの報告が4例あり、その他の発表者も在宅での対象者の生活を支えようとしてきたグループです。また、高齢者だけでなく障害者、障害児、居宅、施設、病院と多種多様な実践報告会でした。

ほとんどの発表者が zoom はもちろん、このような場面での発表を経験したことがなく、事例の選択から、対象者や家族との交渉、個人情報取り扱い、まとめ、原稿作成、パワーポイント制作、リハーサルと、忙しい介護・医療業務の合間を縫っての努力の結果がこれだけの成果に結びついたのだと考えます。発表者自身の大きな自信にも繋がったことと思います。

また、事務局やボランティアの協力スタッフも、計画・企画の段階から自分たちも発表するという過酷なスケジュールをこなしながら、毎週のオンラインでの打ち合わせや会議、他の発表者の指導、数日間に渡るリハーサルなどを遂行しました。その積み重ねが、当日6時間半に及ぶ17組の発表を大きなトラブルもなく開催できた要因と考えます。

今回の市民講座の目的は、これまで福辺流を実践してきた発表者の報告を通じて広く一般の方々にも、『力と意欲を引き出す介助』の意義と実効性を知っていただくことでした。

この実践報告を見ていただいたご本人や家族が、病院や施設入所を選択する前に在宅という選択肢を持っていたら、あるいは「もう少しだけ家で頑張ってみようか」と思い直していただけたら、この市民講座を開催した意義があったと思います。

当日のチャットへの書き込みや質問、後日のメール等に寄せられた感想には、「頑張りたい」というご家族や介護や医療スタッフの声が多く寄せられました。

また、KBS 京都ラジオの地域番組でのインタビューの依頼があり、それを聴いた高齢者からの問い合わせや感想もいくつか届き、十分な反響はあったように感じています。

会場の都合で開催の数日前にオンラインのみの開催が決まり、事前の抄録や詳細なプログラムなどを参加者に送ることができなかったことが反省点です。

現在、当日の zoom の記録を DVD で制作中です。写真や動画などの処理を施したうえで、発表者、当日参加者、希望者等に配布する予定にしています。

事例報告をいただいた発表者と当日参加いただいた皆さまに感謝するとともに、このような報告会を企画・実行する機会を与えてくださった貴財団に心から感謝いたします。

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による  
『力と意欲を引き出す介助術』実践報告会 完了報告

2021年8月31日

一般社団法人白新会 Natural being 代表理事 福辺 節子